

4. 生涯スポーツ社会の実現

国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現

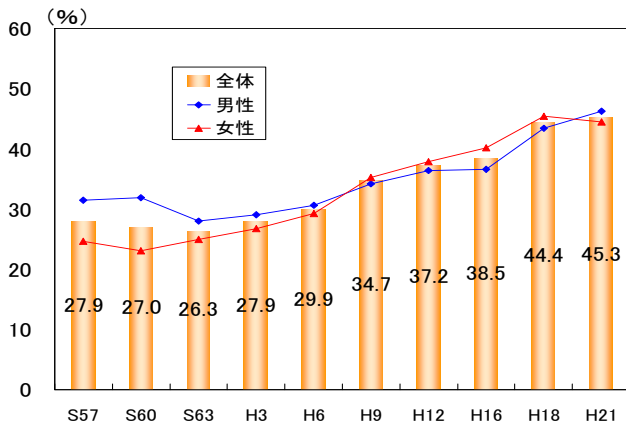
I. 目標と現状

○目標

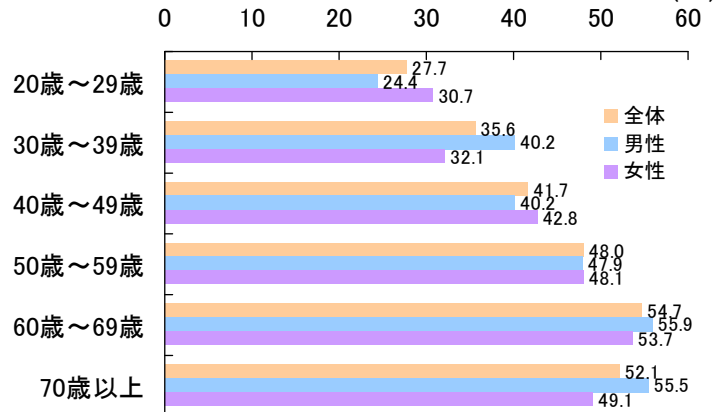
- できる限り早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人（65%程度）、成人の週3回以上のスポーツ実施率が3人に1人（30%程度）となることを目指す（スポーツ立国戦略）
- できる限り早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が2人に1人（50%）となることを目指す（スポーツ振興基本計画）

○現状 国民のスポーツ実施率（週1回）は上昇傾向 平成16年38.5% → 平成21年45.3%

成人の週1回以上スポーツ実施率の推移



成人の週1回以上スポーツ実施率の比較 (%)



内閣府「体力・スポーツに関する世論調査」(平成21年9月)より文部科学省作成

II. 総合型地域スポーツクラブ

○「総合型地域スポーツクラブ」とは、

【多世代】 子どもから大人まで（多世代）

【多種目】 好みや年齢に合った種目や活動を、

【多志向】 それぞれのレベルや目的（仲間との交流、健康・体力づくりなど）に応じて親しむための場を提供

- 地域住民が出し合う会費や寄附により主体的に運営 → 「新しい公共」

【効果】• スポーツ参加機会の充実

- 世代間・住民間交流の活性化
- 元気な高齢者の増加 など

○主な施策

総合型地域スポーツクラブの全国展開を推進するため、

- 各都道府県にクラブ育成アドバイザーを配置
- クラブの運営を担うクラブマネージャーの養成 などを実施

○目標

- 地域住民のスポーツへの参加意欲を高めるなどのため、全国300箇所程度の「拠点クラブ」に引退後のトップアスリート等を配置（スポーツ立国戦略）
- 全国の各市区町村において少なくとも1つは総合型地域スポーツクラブを育成（スポーツ振興基本計画）

○設置状況（平成22年7月）

- クラブ数：**3,114**（創設準備中を含む）
- 総合型クラブ設置市区町村数：1,249市区町村（**全市区町村の71.4%**）

III. スポーツ指導者の養成・活用

○スポーツ指導者の養成支援((公財)日本体育協会補助)

基礎的なスポーツ指導についての知識や技術を有するスポーツ指導者、競技者育成のための指導に当たるスポーツ指導者などの養成を支援

○総合型地域スポーツクラブにおけるスポーツ指導者の養成

総合型地域スポーツクラブにおいて、地域住民の多様なニーズに対応できる人材が確保できるよう、地域スポーツ指導者の研修プログラムを開発し、その普及を図る

IV. 地域のスポーツ施設の整備

○地域のスポーツ施設については、学校施設環境改善交付金において整備費を補助

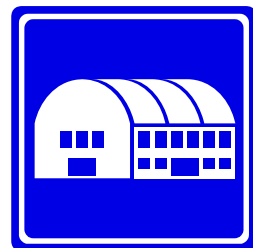
※体育館、陸上競技場、プール、武道場の新・改築事業について補助(補助率原則1/3)

※22年度まで安全・安心な学校づくり交付金において措置

※都道府県立の地域スポーツ施設については、23年度から一括交付金化

○スポーツ振興くじ(toto)助成においては、これまでの屋外照明施設等の小規模な整備事業に加え、平成22年度より、地域スポーツ施設の大規模改修を新たに助成対象とした。

※1件当たり1億円を限度として助成(助成率2/3)



(参考)体育・スポーツ施設設置数

		総数	学校体育・スポーツ施設	大学・高専体育施設	公共スポーツ施設	職場スポーツ施設	民間スポーツ施設
平成20年	箇所数	222,533	136,276	8,375	53,732	6,827	17,323
	%	100	61.2	3.8	24.1	3.1	7.8
平成14年	箇所数	239,660	149,063	9,022	56,475	8,286	16,814
	%	100	62.2	3.8	23.6	3.5	7.0
増減数		△ 17,127	△ 12,787	△ 647	△ 2,743	△ 1,459	509

文部科学省「体育・スポーツ施設現況調査」

V. 全国スポーツ・レクリエーション祭の開催

スポーツ・レクリエーション活動を全国的な規模で実践する場を提供し、国民の参加意欲を喚起

【第23回全国スポーツ・レクリエーション祭】

「スポレクとやま2010」

期日：平成22年10月16日(土)～19日(火)

場所：富山県富山市など



【第24回全国スポーツ・レクリエーション祭】

「スポレク“エコとちぎ”2011」

期日：平成23年11月5日(土)～8日(火)

場所：栃木県宇都宮市など



5. 世界で活躍する競技者の育成・強化

オリンピック競技大会をはじめとする国際競技大会における我が国のトップレベル競技者の活躍は、国民に夢や感動を与え、明るく活力ある社会の形成に寄与。世界で活躍できる競技者の育成・強化を積極的に推進

I. 目標と現状

【目標】

- 今後の夏季・冬季オリンピックで、それぞれ過去最多（夏季37（アテネ）、冬季10（長野））を超えるメダル数の獲得を目指す。また、オリンピック・各世界選手権大会において、過去最多（オリンピックは夏季52（北京）、冬季25（ソルトレークシティ））を超える入賞者数を目指す（スポーツ立国戦略）
- オリンピックにおけるメダル獲得率が、夏季・冬季合わせて3.5%を目指す（スポーツ振興基本計画）

【現状】

北京オリンピック(2008)+バンクーバーオリンピック(2010)での成績 合計 2.47%
メダル数 25 メダル数 5

II. 国際競技力の向上に向けた具体的施策

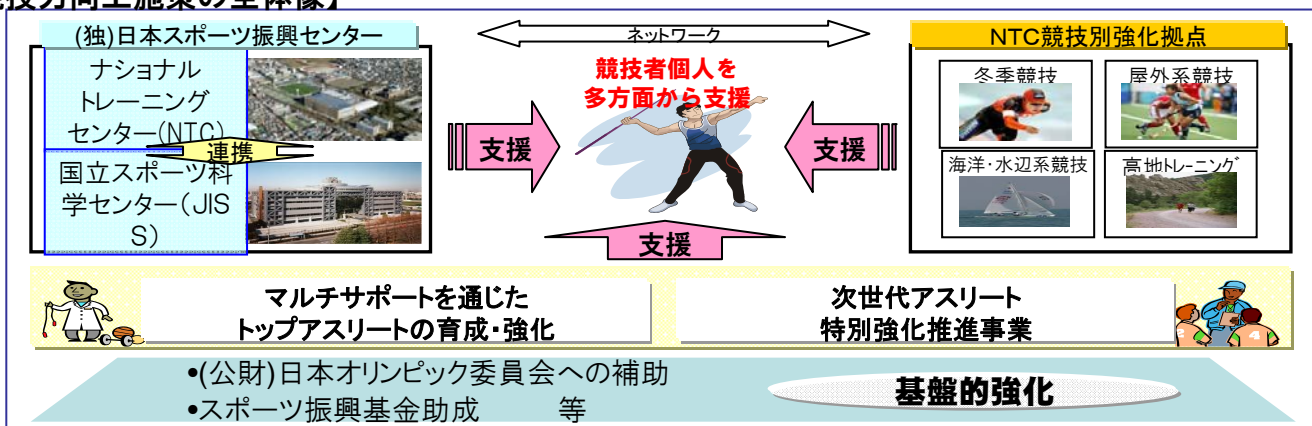
上記目標の実現を図るため、トップレベル競技者が能力を最大限に発揮できるよう、トレーニング環境の改善及び個々の競技者に応じたきめ細やかな支援を充実。

特に、1年半後に迫る2012ロンドンオリンピック対策を検討するため、鈴木寛副大臣のイニシアチブのもと、岡田参与（元サッカー日本代表監督）を中心としたプロジェクトチームを立ち上げ、平成23年4月11日に第1回会議を開催。

【主な施策】

- 〈(公財)日本オリンピック委員会への国庫補助〉
- 〈マルチサポートを通じたトップアスリートの育成・強化〉：トップアスリートへの高度な支援
17競技を指定
- 〈次世代アスリート特別強化推進事業〉：ナショナルコーチの配置
- 〈国立スポーツ科学センターの機能強化〉

【競技方向上施策の全体像】



ナショナルトレーニングセンター(NTC) (平成19年度～)

- ・味の素ナショナルトレーニングセンター
トップレベル競技者が集中的・継続的に強化活動を行う拠点。隣接するJISSと一体的に(独)日本スポーツ振興センターが運営。
- ・競技別NTC(全国で21競技等23施設を指定)
冬季競技・屋外系競技などの既存施設の機能強化。

国立スポーツ科学センター(JISS) (平成13年度～)

スポーツ医・科学研究や選手サポート、診療、スポーツ情報の提供などを実施。(独)日本スポーツ振興センターが運営。

III. ドーピング防止活動の推進

日本は、世界ドーピング防止機構（WADA）の常任理事国として、国内のドーピング防止活動（教育・研修活動など）及び、国際的なドーピング防止活動を積極的に推進

【ドーピング防止活動に関する主な取り決め】

ユネスコ「スポーツにおけるドーピングの防止に関する国際規約」（平成19年2月発効）

文部科学省「スポーツにおけるドーピングの防止に関するガイドライン」（平成19年5月策定）

【主な取組】

ドーピングの撲滅のため、「教育・研修」「人材育成」に重点を置いて事業を推進

IV. 国際競技大会の招致

ラグビーワールドカップ2019年大会

平成21年7月28日、国際ラグビーボード（IRB）臨時理事会において、2019年（平成31年）ラグビーワールドカップ大会の日本における開催が決定。早期の組織委員会の設立、競技会場の確定など様々な取組が必要。

【ラグビーワールドカップ開催予定】

第7回大会(2011年) ニュージーランド（9月9日～10月23日開催）

第8回大会(2015年) イングランド

第9回大会(2019年) 日本

V. 国民体育大会の開催

国民体育大会は、（公財）日本体育協会・文部科学省・開催地都道府県が共催（スポーツ振興法第6条）。「国民スポーツの祭典」として、競技水準の向上や国民へのスポーツの普及、地域振興に大きく寄与

【第66回国民体育大会本大会】

期日：平成23年10月1日（土）～10月11日（火） 場所：山口県

【第67回国民体育大会冬季大会】

「スケート・アイスホッケー競技会」

期日：平成24年1月28日（土）～2月1日（水） 場所：愛知県・岐阜県

「スキー競技会」

期日：平成24年2月14日（火）～17日（金） 場所：岐阜県高山市

【第67回国民体育大会本大会】

期日：平成24年9月29日（土）～10月9日（火） 場所：岐阜県



ちよるる

平成23年度山口国体
マスコットキャラクター



ミナモ

平成24年度岐阜国体
マスコットキャラクター